

みんなづくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

民博との連携を生かした異文化理解教育のカリキュラムづくり：
砂絵を用いた小学校図画工作の実践と10の活動例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中山, 京子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001642

民博との連携を生かした異文化理解教育のカリキュラムづくり —— 砂絵を用いた小学校図画工作の実践と10の活動例 ——

中山 京子

京都ノートルダム女子大学

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 博学連携のカリキュラムづくり | 活動例3 「裸はだかガイコツ」 |
| 2 3年生図画工作での事例「砂絵」 | 活動例4 「アイヌの人々のくらし」 |
| 2.1 日常的な学習の場で考える | 活動例5 「世界の台所」 |
| 2.2 学習活動の実際：砂で描く「砂絵」の世界 | 活動例6 「先住民を知る」 |
| 指導案「砂で描く『砂絵』の世界」 | 活動例7 「多文化社会ニッポン」 |
| 2.3 子どもの活動の姿と作品 | 活動例8 「韓国発見」 |
| 3 展示を活用するための10の事例 | 活動例9 「謎解きにチャレンジ」 |
| 活動例1 「これは何ですか？」 | 活動例10 「移動する人々」 |

*キーワード：博学連携カリキュラム，砂絵，10の活動例，先住民，多文化社会

1 博学連携カリキュラムづくり

博物館と学校の連携（以下、「博学連携」と略す。）においては様々な取り組みがなされている。特に「総合的な学習の時間」が実施されてからは、学びが多様化し、学びの場も学校の外へと広がり、博物館と学校の連携が模索されている。従来の社会科見学や遠足の場としての博物館見学ではなく、博物館と学校が連携して「子どもの学び」をどう支援するかという視点にたって、実践が報告され、その視点は博物館や学校教員だけではなく地域社会教育機関にも広がりをもせている（高橋 2004，高安 2004，中山 2004，JICA 2005）。

各博物館は、「学習の手引き」類を作成して、効果的な活用方法を示している。最近では、歴史民俗博物館によって『先生のための「歴博」見学の手引』（国立歴史民俗博物館監修 2003）がリニューアルされた。この手引きでは、博物館の利用形態を「行事型」「授業型」「研究型」に分類し、利用形態とのかかわりでねらいを明確に定め、見学することを推奨し、各展示室で利用可能なワークシートと解説、見学のポイントを掲載している。また、手引きの他、博物館は国立民族学博物館「みんぱっく」のような貸出し教材の準備や、資料を用意して学芸員が学校に赴き授業をする「出前授業」などが各地の博物館でなされている。

このように、子どもたちを学校教育の一環として受け入れるための努力や工夫を博物

館はしてきている。そういった努力や工夫がなされる中で、学校教員が博物館に頼りきってしまい、主体的に動こうとしないといった問題点も指摘されている。その背景には、「学習」についての博物館と学校の考え方の相違も見え隠れしている。筆者はこれまで「博学連携の課題と評価」について以下の3つの視点を示してきた（中山 2002）。

- (1)博物館展示を学習者に応じて効果的に活用したカリキュラムを作成し、授業と展示見学が子どもの一連の学びとして位置づくように授業を構想する（ことができたか）。
- (2)内容についての子どもの思考を生かした博物館見学の環境づくり・授業づくりをし、展示に対する子どものつぶやきや思考のなかから学習目標にせまるプロセスをとることで、学習の深まりをつくる（ことができたか）。
- (3)学習支援にあたる博物館スタッフと学校教員が相互理解の図る努力をし、連携のためのよりよい関係づくりをする（ことができたか）。

脳裏に学校のカリキュラムを置きながら教材化の視点をもって国立民族学博物館（以下「民博」と略す。）常設展示場を歩くと、授業で活用できる展示物が目にとまる。これを繰り返すことにより複数の具体的な学習活動プランとしてのイメージが膨らんでくる。小学校低中学年には主に活動的な触れて楽しむことを主とした活動、高学年には追究が加わり、第6学年から中学校にかけては知的な追究活動も含んだ学習活動が並ぶと、学校カリキュラムにそった民博の博学連携カリキュラムができる。これは先に示した3つの視点(1)の行為である。例えば、小学校3年生の図画工作の題材に「砂絵」が取り扱われていれば、その活動にあわせて展示の砂絵を関連させて学習活動を構想することができる。また、社会科学習で北海道やアイヌが教材としてあげられる時に、アイヌの展示を関連づけることができる。また、逆の発想で展示を見ながら、既存の教科学習のカリキュラムにはない内容として「総合的な学習の時間」での授業構想をたてることもできる。

以下に本章3節でとりあげる10個の学習活動例を並べてみよう。

〈低学年・中学年〉	→ → →	〈高学年〉	→ → → →	〈中学校〉
これは何ですか？		アイヌの人々の暮らし		移動する人々
砂で描く「砂絵」の世界		世界の台所	先住民	
裸はだかガイコツ		韓国発見	多文化社会ニッポン	
		謎解きにチャレンジ		

これらは本章で具体的に例示するものであるが、これらの事例の他、他の章であげられる事例を組み込むことで、さらに多様な視点から構成された「博学連携カリキュラム—民博編—」ができることになる。

2 3年生図画工作での事例「砂絵」

2.1 日常的な学習の場で考える

オセアニア展示「砂絵シンボリズム」から3年生の図画工作の砂絵を素材にもちいた学習活動を構想した。

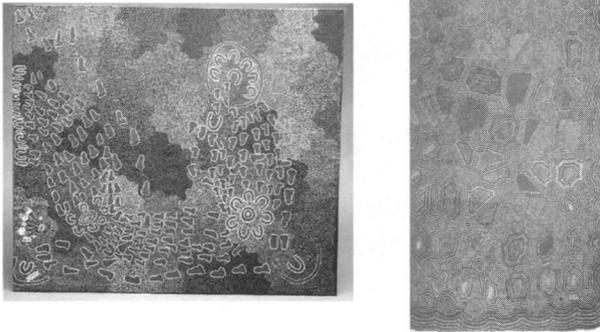
3年生で取り組まれる活動『「色すなをまくあそび」からそうぞうを広げ、おもいついたことをかく¹⁾』の導入として、砂を素材として人は表現してきたことを民博展示や収蔵品から紹介する。そこに描かれていること、描きたくなくなった背景を考え、自分の作品づくりのイメージをふくらませる。子どもたちにとっては自分の砂絵の作品づくりのプロセスの一環であるが、民博展示や収蔵品を見ることで「オーストラリアのアボリジニ」「砂絵を書く人々」「砂で絵を描いたり消したりすることの意味」を知ることになる。国際理解教育のために単元を開発し実施することも必要であるが、このように日常的な学習の中に国際理解の視点を反映させていくことで、子どもの日常生活の中に国際理解の視点が育っていくことも大事にしたい。



写真1 砂絵のシンボリズム

2.2 学習活動の実際：砂で描く「砂絵」の世界

以下は、実際に3年生の児童を対象にした活動である¹⁾。3節の活動例2にあたる。

1. 単元名（活動名）	砂で描く「砂絵」の世界	
2. 対象： 小学校中学年～ 授業者：学級担任、 図画工作専科教員	3. 展示および資料との関連 ・オセアニア展示「砂絵のシンボリズム」 ・所蔵資料（HP上から検索）（2004年12月現在）	
4. 教科領域との 関連性： ・図画工作 ・「総合的な学習の 時間」		

5. 実施時期：2005年12月～2月	6. 総時数： 21.5時限
<p>7. 単元（活動）目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は昔から砂で描き、何かを表現しようとしてきたことを知る。 ・展示資料，パネルや所蔵資料から描かれていることを読み取り，描こうとしたものや考え方を探る。 ・自分で砂を手にとって自由に描き，砂絵の作品を製作して鑑賞する。 	<p>8. キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先住民 ・砂絵 ・アボリジニ ・ネイティブ・アメリカン
<p>9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など）</p> <p>小学校の図画工作の教材に「砂絵」がある*。この「砂絵」の制作活動に，常設展示，展示ガイド，ネット上の検索システムを活用し，先住民が描いてきた砂絵を取り上げるにより学習活動をより豊かなものにできる。</p> <p>人は身近なものを用いて表現する。「砂絵」はその一つであり，現代にそれが継承文化として受け継がれているものもある。オーストラリア中央砂漠地域では，足跡や痕跡をもとにしたシンボリズムが発達し，儀礼の際，地面にドリーミングを表す砂絵が描かれた。現代では，キャンパスにアクリル絵の具で描く芸術に変化している。常設展示場には，シンボリズムの解説とともに現代の作品が展示されている。また，ホームページから「砂絵」で検索できる所蔵作品もある。本提案では，検索して砂絵の作品をプリントアウトしたものと『展示ガイド』11ページの解説をもとに，砂絵を描く活動を構成している。</p> <p>アメリカ先住民のナバホも儀式の中で砂絵を描いてきた。しかし，儀式の中で地面に描かれた砂絵は破壊される。類似した文様が研究用に再現されたり，敷物の文様として折り込まれたりすることはあっても本物が写真にとられることはない。儀礼が終わるとすばやく消し去ることは，チベット仏教の砂曼陀羅に共通する。</p> <p>このような「砂絵」がもつ特徴にもとづいて，授業においては，砂絵を「残さず消す」こと，従来の制作活動と同様に作品として「残す」こととの双方を取り入れたい。作品が完成したその時の美しさや思い入れを一瞬の芸術としてとらえる。これは音楽表現に似ている。録音記録としての音は物理的に残せるが，その空間に現れた瞬間の音そのものは消えゆく。</p> <p>砂を思うようにまき，描かれてくる絵とその場で対話する造形活動をじっくり味わうことができるのが砂絵という教材である。一方で，気に入ったものができれば作品として残したい，自分のものにしたいという欲求もあって当然である。残すことを前提とした作品づくりもできるようにしたい。子どもたちの瞬間に表れる造形感覚を豊かに表現し，自らの手で捲いて描く原始的な技法を用いた砂絵の活動は，創造性も豊になり，出来上がった作品に物語をつけることができる。これは，アボリジニがもつ神話に共通するものが見いだせよう。</p> <p>*教科書『絵の具のぼうけん』開隆堂，平成14年度版</p>	



作った砂絵を消す瞬間

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
導入	<p>1. 昔から人は砂で絵を描いた。アボリジニの砂絵をみてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が描かれているかな。 →動物、虫、森、火、にげる、つかまえる、自然のこと ・描いた人はどんなことを考えて描いているかな。 →つかまえられるかな。山火事から動物が無事ににげてほしい。 ・砂絵は残せるのか？ →わざと消してしまう。 残そうと思って作品にするものもある。 	<p>民博所蔵の絵画資料（解説つき）だが、ネット上に公開されているので、拡大して子どもに示す。</p> 
展開	<p>2. 自分も作品をつくってみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">消す作品を作ってみよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">残す作品を作ってみよう</div> </div> <p style="text-align: center;">↓ ↓</p> <p style="text-align: center;">素材を選ぼう。</p> <p>残さない作品：砂とトレイ 残す作品1：両面テープ+画用紙+砂 残す作品2：ボンド+画用紙+砂</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>思いつくまま、自然や生き物をテーマに砂を落としてみよう。模様からテーマもみえてくるよ。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">「絵」を描いてみよう。 思うままに砂を落としたり、「絵」が見えてきた。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">できた！タイトルをつけてみよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>自分の作品さよ うなら 手でまぜて消す そのままざーっ と流す</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>↓</p> <p>教室に飾ろう 友達の作品を眺め よう</p> </div> </div>	<p>砂は色が自由に出せるように色砂を用意する。</p> <p>両面テープは砂が剥がれにくくするように、カーペット用両面テープを用意するとよい。（平面的）</p> <p>ボンドは木工用を用意し、ボンドを画用紙の上にたらし、そこに砂を蒔いていき、そのまま乾燥させる。（立体的）</p> 
<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人は昔から砂で描き、何かを表現しようとしてきたことを知る。（発言、感想） ・展示資料や所蔵資料から描かれていることを読み取り、描こうとしたものや考え方を探る。（発言） ・自分で砂を手にとり、自由に描き、砂絵の作品を製作して鑑賞する。（作品、制作活動、鑑賞ノート、発言） 		
<p>12. 授業づくりのための参考資料²⁾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北沢方邦『ホピの聖地へー知られざる「インディアンの国」ー』東京書籍、1996年。 ・ポーラ・R・ハーツ『アメリカ先住民の宗教』青土社、2003年。 		

2.3 子どもの活動の姿と作品



「アボリジニの砂絵には…。」



「砂の絵は不思議。」



砂をまいてみて

→ →

色をまぜてみて



→ →

完成「太陽と海」

グルリンオリンピック（木工用ボンド砂固定作品）



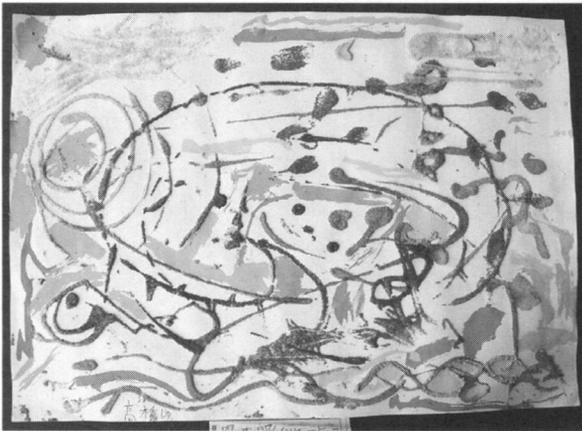
ある日のことです。長い首のぼうがありました。色は黄色、水色、赤色です。それはへびでした。へびたちはいろんなぼうけんをしています。今日はグルリンオリンピックという国に来ました。グルリンオリンピックにはいろんな所があります。たとえば、オリンピックの神様とも言える青

と赤の円です。三匹はそれを見るのが楽しみです。しかし、大きなトゲトゲのへびがあらわれました。

大きなトゲトゲのへびはぐるぐるあばれました。ぐるぐるオリンピックがあらされてめちゃくちゃになってしまいました。ドンチャンドドンガンガン。すごい音が鳴りました。大きなトゲトゲはすぐにその場をさっていきました。なんということに、キラキラ光った金がたくさんザクザクと出てきました。それはメダルでした。三匹のへびはこれからもずっとぼうけんを続けて楽しくすごしたそうです。これが自然のぼうけん！。

(はるな)

風太郎くんのゆう気 (木工用ボンド砂固定作品)



ある日、風の村で風ベットのスピードレースがありました。それに出場する風太郎君という子がいました。ベットはヒューヒューというあいぼうです。どちらもとても弱虫であまえんぼうでした。

大会一週間前のことです。風太郎君は練習にはげんでいました。「それ！行け！曲がれ！」

当日のこと。本番になるとやっぱりきんちょうしてびくびくしてだめでした。でも、「はりきってがんばろう。行くぞ！」「よーいどん！」

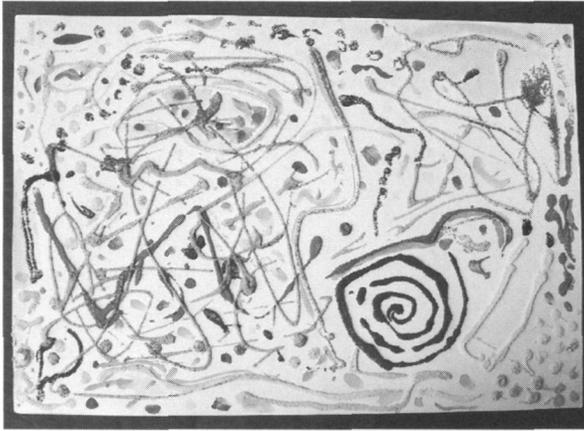
いよいよレースの始まりです。ヒューヒューがトップ集団に立ちました。「行けヒューヒュー、曲がれ！」頑張って指示を出しています。

「今だ、つきぬけだー！いけー！」なんと風太郎とヒューヒューが優勝したのです。

お母さんはほめてくれました。

「ゆう気がついたわね。」(ひであき)

かたつむりの雨（木工用ボンド砂固定作品）



りはびっくりしました。けれどまわりをみまわしてもいません。また、「かたつむりさーん。」と聞こえてきました。かたつむりは雨から聞こえてきます。そして雨から、「遊ぼうよー」と聞こえてきました。うれしくて一緒に遊びました。雨がふった時は毎日遊びました。（ゆうすけ）

オレンジの足がない馬（木工用ボンド砂・木片固定作品）



がこの馬の役目です。（しょうぶ）

ある日、雨がふりました。そこにかたつむりくんがいました。名前は雨のかたつむりです。雨のかたつむりは、友達がいけません。だんだん雨が強くなってきます。かたつむりは友達がほしかったのです。だけど友達はいないし悲しかった。かたつむりの耳に、

「かたつむりさーん」と聞こえたのです。かたつむ

この馬は、魔法がつかえる馬で、人がこまっていると、どこからか出てきます。魔法が使えるから、悪い人といい人が丸見えで、テロリストや空き巣をこらしめ、ふだんいい事をしている人には親切にしてくれます。スマトラ島の地震にあった人にも、おいしい食べ物めぐんでくれます。こまっている人を助けるの

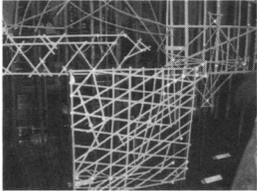
3 展示を活用するための10の事例

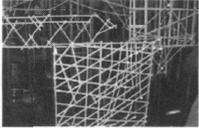
前節において「砂絵」を事例に実践を紹介したが（活動例2）、次ページ以降に他の事例についての詳細を提案する。

活動名、対象学年、目標を以下に記す。

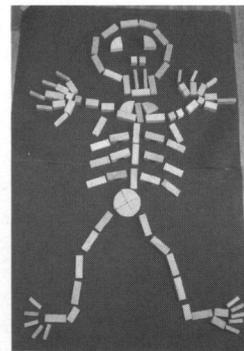
〈低学年・中学年〉 → → → 〈高学年〉 → → → 〈中学校〉		
これは何ですか？	アイヌの人々の暮らし	移動する人々
砂で描く「砂絵」の世界	世界の台所	先住民
裸はだかガイコツ	多文化社会ニッポン	
	韓国発見	
	謎解きにチャレンジ	

学習活動名	対象学年	学習活動のねらい
1 これは何ですか？	小学校 低中学年～ 中学校	・未知なるモノに出会い、モノへの問いをもつ。 ・想像力を働かせながら、絵や言語を用いた・コミュニケーションを通して、推測する。 ・活動を通して、そのモノの文化を知る。
2 砂で描く「砂絵」の世界	小学校 中学年～ 中学校	・人は昔から砂で描き、何かを表現しようとしてきたことを知る。 ・展示資料、パネルや所蔵資料から描かれていることを読み取り、描こうとしたものや考え方を探る。 ・自分で砂を手にとって自由に描き、砂絵の作品を製作して鑑賞する。
3 裸はだかガイコツ	小学校 中学年～ 中学校	・裸、骸骨に着目し、身体がどのように表現されているかという視点で展示を見る。 ・着目した裸像や骸骨から、文化固有の価値観や精神性を理解する。
4 アイヌの人々の暮らし	小学校 高学年～ 中学校	・アイヌの豊かな文化について進んで調べ、知ろうとする。 ・展示「アイヌの文化」を見て、関心あるものについて詳しく調べる。 ・アイヌの人々の歴史的経験を理解する。
5 世界の台所	小学校 高学年～ 中学校	・台所にあるもの、調理に関係あるものを展示場から探し、特徴付けている点を探る。 ・気候風土に適した食文化について調べる。 ・食と生活様式についての関係性を理解する。
6 先住民を知る	小学校 高学年～ 中学校	・国内外の先住民の暮らしやメッセージなどについて関心をもって理解を深めようとする。 ・展示されているものから先住民の暮らし方を知る。 ・展示からメッセージを自分なりに読み取る。 ・理解したことや自分の考えをまとめて、作品化する。
7 多文化社会ニッポン	小学校 高学年～ 高等学校	・日本が多文化社会であることに気づく。 ・多文化社会である地域を探索し、多文化マップを作成できる。 ・様々な文化的背景をもつ人々と共生していくために、自分はどうのように行動したらよいか考える。
8 韓国発見	小学校 高学年～ 中学校	・朝鮮半島の文化について具体物を通して理解しようとする。 ・展示やモノから、調べたいテーマについて追求し、発見や考えを表現することができる。
9 謎解きにチャレンジ	小学校 高学年～ 中学校	・マヤ文字や砂絵を見て、その意味や音を解説する面白さを味わう。 ・マヤ文字や砂絵に描かれている意味や音を解説し、転写したり、自分で意味あるものを描いたりすることを通して、理解を深める。 ・作品づくりに取り組み、相互に見て楽しむ。
10 移動する人々	小学校 高学年～ 高等学校	・人はなぜどのように移動しようとするのか考える。 ・人が移動することによって何がおこるか考える。 ・展示から人の移動にかかわるものを探し、調べて、発表する。

1. 単元名 (活動名) これは何ですか？	
2. 対象： 小学校中学年～ 中学校 授業者：学級担任， 教科担任	3. 展示および資料との関連  
4. 教科領域との 関連性： ・国語「聞く」「話す」 ・「総合的な学習の 時間」 ・図画工作／美術	5. 実施時期：いつでも
6. 総時数：対象学年や学習にあわせて 弾力的に運用する。	7. 単元 (活動) 目標： ・未知なるモノに出会い，モノへの問いをもつ。 ・想像力を働かせながら，絵や言語を用いたコミュニ ケーションを通して，推測する。 ・活動を通して，そのモノの文化を知る。
8. キーワード ・未知なるモノ ・推測 ・クイズ	9. 単元について (教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など) 本活動は，国語「聞く」「話す」の領域，図画工作 (美術) を合科的に取り扱う 他，「総合的な学習の時間」での実施を構想している。 人は異文化にある未知なるモノに出会ったとき，まず，これは何だろうと考える が，学校教育においては，すぐに「調べ学習」に展開し答えに導こうとする場合 が多い。本活動では，じっくりモノを見て，推測してみるという行為を大切にしたい。 そこで，そのモノをていねいに描いて仲間に伝えたり，言語で説明をしたりして， 「これは何でしょう」という問いから始まるやりとりを通して，そのモノの正 体に迫っていく，クイズ感覚のやり取りを設定した。話者は情報を伝えるための言 葉を選び，順序立てて話していくことが求められ，聞く方は制限された情報を手が かりに能動的に言葉聞き，推測することを求められる。これは国語の「聞く」 「話す」の領域の力を育てている。また，じっくりみて描くことでその文化を特徴 付ける色彩感覚に触れることができる。 この活動を通して，展示空間を駆け抜けていくのではなく，じっくりモノと対話 する姿が見られることを期待したい。

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>1. 人は不思議なモノに出会ったらどうするか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を働かせる。想像する。聞いてみる。調べる。 <p>2. 民博に行って「これは何でしょう」クイズのための取材をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不思議なもの、気に入ったものを見つけよう。 ・じっくりそれを観察して、スケッチをしたり、言葉で記録をとってみたいしよう。 <p>3. クイズをつくろう。</p> <p>形、色、特徴、つかわれる気候、おいてある思われる場所などを整理して、ヒントの順番などを整理してメモをつくる。</p> <p>4. 「これは何でしょう」クイズ大会を開こう。（例）</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <ul style="list-style-type: none"> ・これがきたら困ります。 ・悪いことが起きないようにお供えをします。 ・魔よけにこの人の劇を演じます。 ・インドネシアの有名なリゾート島のものです。 </div> </div> <p>・答えはインドネシアバリ島の魔女ランダといいます。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 2;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ココヤシの葉柄と貝でできています。 ・これを使って勉強をします。 ・計算機ではありません。 </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ココヤシは波のうねりの方向を表しています。 ・島がたくさんある地域で使われました。 ・カヌーを使う人々に必要でした。 ・実際には持って行きません。 ・答えは、マーシャル諸島共和国で使われていた海図です。 	<p>○留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・示すものはデジカメで記録したもの、描いたもの、展ガイド、みんなからのものでよい。
	<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未知なるモノに出会い、モノへの問いをもつことができる。（行動観察） ・想像力を働かせながら、絵や言語を用いたコミュニケーションを通して、推測することができる。（言動、発言、行動観察） ・活動を通して、そのモノの文化を知ることができる。 	
	<p>13. 授業づくりのための参考資料</p> <p>国立民族学博物館『国立民族学博物館展示ガイド』2003年</p>	

1. 単元名 (活動名) ハダカ裸ガイコツ!	
2. 対象: 小学校中学年～ 中学校	3. 展示および資料との関連 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>インドのジナ像</p>  <p>① ジナ像の由来</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>メキシコの骸骨人形</p> </div> </div>
4. 教科領域との 関連性: ・体育 保健領域 ・保健室教育 ・「総合的な学習の 時間」	6. 総時数: 活動や対象学年にあわせて 弾力的に運用
5. 実施時期: いつでも可	7. 単元 (活動) 目標: ・裸, 骸骨に着目し, 身体がどのように表現されている かという視点で展示を見る。 ・着目した裸像や骸骨から, 文化固有の価値観や精神性 を理解する。
8. キーワード ・裸像 ・ガイコツ	9. 単元について (教材観・単元設定の理由・民博活用 の視点など) 普段見られないものをじっくり見られるのが博物館の よいところである。ここでは人の身体に着目した。身体 がどのように表現されているかという視点で, 展示を見 ていくと, その文化固有の価値観や精神性がみえてくる。 本活動では, 子どもたちが身体に着目して展示場を探 険し, 裸や骸骨の像から読み取れることを探る。なぜ裸 なのか, なぜ骸骨なのか, なぜそのような身体なのか, 何を表現しようとしているのか, などを考えたい。 例えば, インドのジャイナ教のジナ像は裸である。これは白衣 (びやくえ) 派と 裸派に分裂して今日にいたっている。解脱にたつするために, 裸になり極めて禁 欲的な生活実践を行うという。メキシコの骸骨人形は展示の中でも子どもたちの人 気者である。メキシコでは, 砂糖菓子やおもちゃかざりに骸骨が好んで使われると 言う。死は日常の一部で, 親しみ深いものであるというメキシコ独特の観念を表す ものである。日本の岩手県遠野のコンセイ様から, 人々のどんな願いが込められて いるのか考えることもできる。実際に子どもたちが写真のガイコツを作った時に一 番真剣に話したのは性器についてである。教室という空間で, 日常的には口に出して 言いにくい話題を骸骨づくりで語りあえることが面白い。この活動を通し「身 体」にじっくりと向かい合ってほしい。



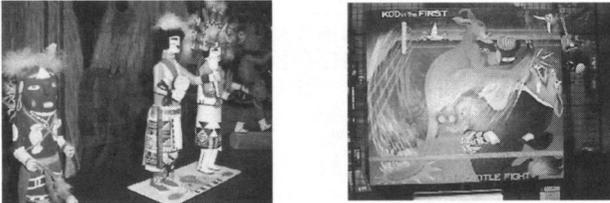
10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
展示 見学 見学・ 話し 合い	<p>1. 展示場の「ハダカ」「骸骨」を探してじっくり観察しよう。</p> <p>2. その「ハダカ」「骸骨」からどんなことがわかるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして裸なのか。 ・どうして骸骨なのか。 ・その身体にヘンなところはないか。どうしてヘンなのか。 ・男性と女性のちがいはどう表現されているの？ <p>3. 「ハダカの主張」「ガイコツの主張」をテーマに作品をつくってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジカメ画像や描画したものに解説を添えてフリップを作る。 ・画像や描画したものに吹き出しをつけて「主張」として言葉をつける。 ・その偶像になりきって作文を書く。 ・ガイコツを作ってみる。 	○留意点
		・左写真はつみ木を用いて表現した
11. 評価計画：		
<ul style="list-style-type: none"> ・裸，骸骨に着目し，身体がどのように表現されているかという視点で意欲的に展示をみることができたか。 ・着目した裸像や骸骨から，文化固有の価値観や精神性を理解しようとしたか。 		
12. 授業づくりのための参考資料		
<ul style="list-style-type: none"> ・養老孟司著『日本人の身体観』日本経済新聞社，2004年 ・島泰三著『はだかの起源 不適者は生きのびる』木楽舎，2004年 ・藤井正雄／著『死と骨の習俗』双葉社，2000年。 		

1. 単元名（活動名） アイヌの人々の暮らし	
2. 対象： 小学校高学年～ 中学校 授業者： 学級担任、 教科担任	3. 展示および資料との関連 展示「アイヌの文化」 国立民族学博物館特別展図録 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構『アイヌからのメッセージ—ものづくりと心—』 2003年 および付録国立民族学博物館「アイヌを語る アイヌが語る」 ・1209：アラスカの内陸エスキモー ・1264：アイヌの仕掛け弓・アマッポ ・1372：ハイダ族のトーテムポール 北アメリカ北西海岸先住民 ・1298：アボリジニの小麦粉料理 ・1268：アイヌのシリカップ料 ・1479：アットウシーアイヌの衣服 ・1250：沙流アイヌの家造り ・1222：アイヌの子ども夏の遊び ・1223：アイヌの子ども 魚とり ・1249：沙流アイヌの結婚式 ・1266：アイヌの楽器・トンコリ ・1267：アイヌのシリカップ漁—白老— ・1369：北アメリカ 北西海岸先住民の工芸
4. 教科領域との関連性： ・小4 社会 ・小6 年社会 ・中学社会 ・「総合的な学習の時間」	
5. 実施時期： いつでも	6. 総時数： 対象学年や学習にあわせて弾力的に運用する。
7. 単元（活動）目標： ・アイヌの豊かな文化について進んで調べ、知ろうとする。 ・展示「アイヌの文化」を見て、関心あるものについて詳しく調べる。 ・アイヌの人々の歴史的経験を理解する。	8. キーワード ・アイヌ ・生活 ・文化
9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など） 教員養成系大学の学生46名へのアンケートで（平成15年実施）、日本に先住民族がいるかという質問に対し、「わからない」と回答したのが16名、「いない」が6名、「いる」が23名、「その他」が1名であった。ほぼ半数がに本の先住民族としてアイヌを認識していないことが分かった。 小学校社会科で先住民としての「アイヌ」について学習する時、北海道の博物館や資料館の活用を想定することができるが、実際、北海道以外の学校では実施は難しく、資料での学習に頼ってきた。しかし、民博展示「アイヌの文化」ではアイヌの文化を具体的なものを通して学ぶことができる。 小学校4年生社会科の教科書（東京書籍平成17年度版）には、「北海道でも昔からアジアと貿易をしていたと聞いておどろきました。」「こんな小さな船で貿易をしていたと聞いて、ますますびっくりしました。」「古くからアイヌの人々に伝わる首かざりです。ヨーロッパから運ばれてきたガラス玉もまじっているなんて、おどろきです。」「毛皮やこんぶなどの北海道の自然のめぐみも遠く中国まで運ばれていたんだって」と記述がある。中学社会科教科書にも同様の記述がある。このような記述について展示「周辺民族との交易」から学ぶことができる。社会科においてはアイヌ文化にだけ焦点化して多くの時数をかけて学習することは難しいが、博物館見学を含めた「発展的な学習」とすることや、教科学習から発展させた総合学習、修学旅行などの行事との連携など、取り組みの可能性は高い。	

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>1. アイヌの人々について調べよう。／調べるテーマは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつごろ、どこに暮らしていた人々か。 ・近現代からのアイヌの人々の経験はどんなものだったのか。 ・現在のアイヌの人々のくらしは。 ・アイヌの人々が伝えようとしている文化は？ <p>2. もっと知るために民博へ行ってみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示「アイヌの文化」をみると昔の暮らしの様子がわかる。 ・気に入ったもの一つをじっくり観察して、スケッチをしてみよう。 ・模様を写し出してみよう。 ・アイヌの衣服 ・アイヌの家と信仰 ・くらしに生きる工芸 ・周辺民族との交流を示すもの ・ビデオテープで調べてみよう。 <p>3. 展示から世界の「先住民」について調べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブ・アメリカンはどんな人々？ ・カチナ人形やトーテムポールに託された祈りを考えよう。 ・先住民は昔から生まれながらにして権利が保証されていたのか？ ・アポリジニが書いたこのポスターからのメッセージを読もう。 ・二風谷村の運動を比較してみよう。 <p>4. 学んだこと、考えたことを作品にあらわそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞、カルタ、紙芝居、ポスター、作文、絵本づくりなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を深めるために、導入に児童図書『アイヌとキツネ』（かやのしげる／文 いしくらきんじ／絵、小峰書店、2001年）『パヨカカムイ ユカラで村をすくったアイヌのはなし』（かやのしげる／文 いしくらきんじ／絵小峰書店、2000年）などを用いてもよい。 ・文化を学習の中心にするが、発達段階に応じて、積極的に偏見や差別との闘いについても触れていく。
<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの豊かな文化について進んで調べ、知ろうとしたか。（行動観察、発言） ・展示「アイヌの文化」を見て、関心あるものについて詳しく調べる。（行動観察、記録ノート） ・アイヌの人々の歴史的経験を理解する。（発言、記録ノート） ・世界の先住民について興味をもつ。（発言、記録ノート） 		
<p>12. 授業づくりのための参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立民族学博物館特別展図録 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構『アイヌからのメッセージ—ものづくりと心—』2003年 および付録国立民族学博物館「アイヌを語る アイヌが語る」 ・平山裕人『アイヌの学習にチャレンジャー—その実践への試み—』北海道出版企画センター ・島田アツヒト／文・絵 川島宙次／監修『民家の事典—北海道から沖縄まで—』小峰書店、2004年 		

1. 単元名（活動名） 世界の台所から	
2. 対象： 小学校高学年～ 中学校 授業者：学級担任， 教科担任	3. 展示および資料との関連 西アジア展示場  <small>コーヒーひき</small>  <small>コーヒーポット</small>
4. 教科領域との 関連性： ・小学校家庭科 ・中学校技術家庭科 ・「総合的な学習の 時間」	5. 実施時期：いつでも
6. 総時数：対象学年や学習にあわせて 弾力的に運用する。	7. 単元（活動）目標： ・台所にあるもの，調理に関係あるものを展示場から探 し，特徴付けている点を探す。 ・気候風土に適した食文化について調べる。 ・食と生活様式についての関係性を理解する。
8. キーワード ・台所 ・食文化 ・家族 ・気候風土	9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など） われわれ日本人が「お茶にする」と言えば，コーヒーか紅茶，緑茶を入れて飲む。『お茶にする』はという表現には文字通り，のどの渇きを潤す意味に加え，懇親をはかることを意図する場合が多い。小学校家庭科では，学習指導要領の内容に「家族とのふれ合いや団らんを楽しくする工夫をすること」とあり，教科書などには，家族でお茶を飲む場面などが描かれている。家庭科学習の発展的なものとして，例えば，台所にあるもの，調理に関係あるもののなかから「お茶にする」行為に焦点化した事例を示したい。 コーヒーと言えば，ブラジルやハワイのコーヒー栽培を思い浮かべるが，最初にコーヒーを飲みはじめたのはどこだろう。西アジア展示場にあるコーヒーひきとコーヒーポットに注目しよう。コーヒーを飲む習慣は中東世界からヨーロッパを通じて世界中に広まった。豆をフライパンで炒った後，ホーンと呼ばれコーヒーひきでひいてバングラジュとよばれるポットに入れてコーヒーを入れていた。また，同じ西アジアのペドウインのシャイーとよばれるお茶は，数回はおかわりをするのが礼儀とされる。ペドウイン社会のお茶は客を迎えた気前の良さを示す場であり，客同士お茶を飲む習慣がある。その他展示場には「お茶」に関するものがたくさんある。 その他，「お酒」「かまど」「調理法」などテーマをしぼって展示物をみて，レポート等を作成して，調理にかかわる学習に役立てることもできる。

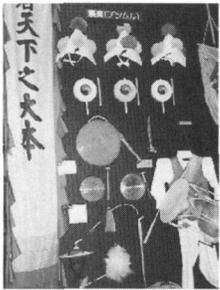
10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>1. 自宅の台所にあるものから、特色ある地域らしいもの、日本らしいものを持ち寄り、その理由を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南部鉄瓶：おばあちゃんのもの。寒い地域の生活に合う。 ・土鍋：鍋物のためのもので、きっと外国にはないと思う。 ・炊飯器：米食の地域にしかないと思う。 <p>2. 台所にあるもの、調理に関係あるものを展示場から探し、地域や食文化を特徴付けている点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箸 ・器 ・調理器具 ・鍋 ・膳 ・ポット ・食料保存袋 ・かまど ・調味料調合具 ・ざる など <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ウズベキスタンの炊事場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>チベットの銀製食器</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ニューギニアの食物貯蔵用土器</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>インドの香辛料入れ</p> </div> </div> <p>地域や食文化を特徴付けているものについて話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ←気候の視点から ←風習の視点から ←歴史の視点から ←比較・共通性の視点から <p>3. 見つけたものをカードに表現し、共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードにして、展示したり、クイズを出し合ったり、交換したりするなどして、見つけたものを共有しあう。 	<p>・例えば、「箸」をテーマにして探したとしても、実に様々な箸を探すことができる。それらを比較して記録していくなど、例として見学前に視点を示すと効果的である。</p>
	<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台所にあるもの、調理に関係あるものを意欲的に展示場から探し、特徴付けている点を探することができる。（発言、行動、カード） ・気候風土に適した食文化について調べることができる。（発言、行動、カード） ・食と生活様式についての関係性を理解しようとする。（発言、行動、カード） 	
	<p>12. 授業づくりのための参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎玲子著『世界の台所博物館』柏書房、1988年12月 ・宮崎玲子著『台所から見た世界の住まい』彰国社、1996年 ・朝倉敏夫・阿良田麻里子著 石毛直道監修『くらべてみよう！日本と世界の食べ物と文化』講談社、2004年 ・石毛直道／監修『世界の食文化 12』農山漁村文化協会、2004年 ・石毛直道／監修『世界の台所』 	

1. 単元名（活動名） 先住民を知る —アイヌ、ネイティブ・アメリカン、アボリジニ、マオリ、先住ハワイ人の展示から—	
2. 対象： 小学校高学年～ 中学校 授業者：学級担任、 教科担任	3. 展示および資料との関連 展示「アイヌの文化」 展示「先住民運動」 展示「祈る」 ビデオテーク資料
4. 教科領域との関連性： ・小学校6年社会科、中学校社会科「アイヌ」に関連した学習や発展としての先住民についての学習 ・総合学習	
5. 実施時期： いつでも可	6. 総時数： 対象学年や学習にあわせて弾力的に運用する。
7. 単元（活動）目標： ・国内外の先住民のくらしやメッセージなどについて関心をもって理解を深めようとする。 ・展示されているものから先住民の暮らし方を知る。 ・展示からメッセージを自分なりに読み取る。 ・理解したことや自分の考えをまとめて、作品化する。	8. キーワード 先住民、アイヌ、ネイティブ・アメリカン、アボリジニ、マオリ、先住ハワイ人
9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など） 小学校指導要領社会科「指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い」において、「博物館や郷土資料の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行うようにすること」とある。 小学校社会科で先住民としての「アイヌ」について学習する時、北海道の博物館や資料館の活用を想定することができるが、実際、北海道以外の学校では実施は難しく、資料での学習に頼ってきた。しかし、民博展示「アイヌの文化」ではアイヌの文化を具体的なものを通して学ぶことができる。また、「発展的な学習」として他の「先住民」（アイヌ、ネイティブ・アメリカン、アボリジニ、マオリ、先住ハワイ人）を取り上げることができる。先住民の文化剥奪されてきた歴史や権利獲得運動は、先住民の共通する問題である。こういった問題を深く掘り下げて学習することは、総合的な学習に発展しうる。ネイティブ・アメリカンについても、「物語上の人、ジャングルのようなところで雄叫びをあげている人、戦闘的な人」といった日本の子どもの誤認識やステレオタイプな見方を問い直す契機になる。 学習する児童生徒の学年や発達段階に応じた学習内容を選択し、指導計画を立てる必要はあるが、国内外の先住民のくらしやメッセージなどについて関心をもって理解を深めようとする、展示されているものから先住民の暮らし方やメッセージを読み取ることをねらいとすることができる。そして、「先住民」について理解したことや考えを、新聞、絵、物語などの作品としてまとめ、それらを教室や廊下に展示することにより、さらに学習活動が多くの児童生徒に広がる契機となる。	

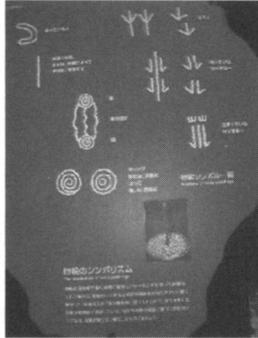
10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>1. 先住民であるアイヌの人々について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料を使ってアイヌの歴史的経験を知ろう。 <p>松前藩との交易，北方交易圏でのアイヌ，江戸幕府による支配，明治維新以降のアイヌの人々の暮らし，偏見と戦う中で，二風谷村の闘い， 〈もっと知るために民博へ行ってみよう！〉</p> <p>2. アイヌの人々の昔の暮らしの様子を知ろう</p> <p>展示「アイヌの文化」をみると昔の暮らしの様子がわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> アイヌの衣服 アイヌの家と信仰 くらしに生きる工芸 周辺民族との交流を示すもの <p>3. 世界の「先住民」について調べてみよう。</p> <p>(1) ネイティブ・アメリカンは戦闘的な人々か？ カチナ人形やトーテムポールに託された祈りを考えよう。</p> <p>(2) 先住民は昔から生まれながらにして権利が保証されていたのか？ アボリジニが書いたこのポスターからのメッセージを読もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 二風谷村の運動を比較してみよう。 <p>(3) ハワイ人のお店「ハレ・クーアイ」が伝えたいメッセージは何か。</p> <p>4. 学んだこと，考えたことを作品にあらわそう 新聞，ポスター，物語，人形などをつくって展示しよう。</p>	<p>・社会科学学習を窓口にした展開を想定しているが、「総合的な学習の時間」においてトピック学習のような形で展開することも可能である。</p>
		 <p>ハレ・クーアイにあるTシャツ</p>
	<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内外の先住民のくらしやメッセージなどについて関心をもって理解を深めたか。（言動，記述） 展示されているものから先住民の暮らし方を知る。（言動，記述） メッセージを自分なりに読み取ることができたか。（言動，記述） 理解したことや自分の考えをまとめて，作品化できる。（作品） 	
	<p>12. 授業づくりのための参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 本多俊和・大村敬一他著『文化人類学研究—先住民の世界—』日本放送出版協会，2005年。 綾部恒雄監修『講座世界の先住民族—ファースト・ピープルズの現在—』，明石書店，2005年。 上村英明監修 藤岡美恵子編 中野憲志編『グローバル時代の先住民族「先住民族の10年」とは何だったのか』法律文化社，2004年。 	

1. 単元名（活動名） 多文化社会ニッポン	
<p>2. 対象：小学校中～中学校 授業者：学級担任，社会科指導教諭</p> <p>4. 教科領域との関連性： ・小学校中学年社会科 「まちたんけん」 ・小学校6年生社会科 「私たちのくらしと関係が深い国々」 ・中学校社会科公民的分野 「多文化社会」 「総合的な学習の時間」</p>	<p>3. 展示および資料との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庄司博史編『多みんぞくニホン—在日外国人のくらし—』国立民族学博物館，2004年（下写真17頁より） ・中牧弘允編『越境する民族文化』国立民族学博物館，1999年 ・特別展「多みんぞくニホン—在日外国人のくらし—」 <div style="text-align: right;">  </div>
<p>5. 実施時期：いつでも可</p>	<p>6. 総時数：6時間～7時間 (発達段階や単元にあわせて弾力的に運用)</p>
<p>7. 単元（活動）目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本が多文化社会であることに気づく。 ・多文化社会である地域を探検し，多文化マップを作成できる。 ・様々な文化的背景をもつ人々と共生していくために，自分はそのように行動したらよいか考える。 	<p>8. キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化社会 ・多文化マップ ・共生
<p>9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など）</p> <p>現在，日本の総人口の1.5%にあたる190万人が外国人登録者である。群馬県大泉町のように住民の1割以上が外国人である街もある。</p> <p>これまで国際理解教育の取り組みの中で「内なる国際化」に着目した地域の国際化調べや，人権教育として在日韓国・朝鮮人の歴史的経験を学ぶ学習が展開されてきた。しかし，特定のエスニックのみを学習対象とするのではなく，地域や日本全体において，在日外国人がどのような歴史的経験を経て，現在くらししていくのか，包括的に学ぶことは少ない。そこで，本特別展示『多みんぞくニホン—在日外国人のくらし—』見学（図録精読）を学習活動に取り入れることは，展示がオールドカメラもニューカメラも含めて包括的に在日外国人を対象にしていることから，全体像を子どもたちが把握し，理解を深めることを支援するものである。</p> <p>展示見学や図録精読を学習活動にとり入れる場合，資料として，児童生徒にとって理解することが難しいものが多い。したがって，展示や図録を網羅的に見るのではなく，授業の目標にそって精選した資料を提示していく必要がある。また，見学は学習者の理解や視点を広げるための活用であり，見学を通して培ったものを地域社会を見る目や自分の言動に還元していくように学習全体を構想したい。そこで，本学習活動提案においては，地域の多文化マップをつくる活動を設定し，学習者が実践的に学べるようにした。</p>	

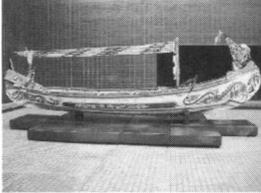
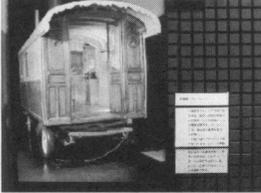
10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
導入 0.5時間	1. 日本は単一文化社会か、多文化社会か。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本文化といったら着物とかお茶、というように「和風」があるから一つの文化だと思う。 ・アイヌの文化や地域の言葉や風習があるから、単一文化ではない。 ・日本人はみな日本語を話すから単一文化だと思う。 ・在日韓国・朝鮮人の人々がいるから単一文化とは言えない。 ・暮らしている外国人もいて、いろいろな言葉や食べ物があるから多文化社会だともう。 	・発達段階に応じて「単一文化社会」「多文化社会」という言葉を平易な言葉に置き換えたり補足したりして使用することが必要。
展開 0.5時間	2. この写真はどこの国？ <ul style="list-style-type: none"> ・ハングルばかりだから韓国？いや後ろに漢字もみえるよ。 ・このお祭りの写真は日本人じゃないけど、標識に大泉町って書いてある。 ・日本にも不思議な街があって、外国人がたくさん暮らしている。 	・新宿区大久保や大泉町のような地域の写真をとりあげる。 
2時間	3. 日本でくらす外国人のくらしを調べてみよう —特別展「多みんぞくニホン—在日外国人のくらし—」を見よう— <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の服「チョゴリ」の制服を着ている子たちの写真がある。 ・中華街は知っていたけれど、中華学校があって、そこで教育を受けている子たちがいる。ブラジル人学校もある。 ・不思議な写真がたくさんある。 ・多言語での行政サービスがあることがわかった。でもそれはまだ足りない？それとも十分？ ・同じ在日外国人でも「オールドカマー」と呼ばれる人と「ニューカマー」と呼ばれる人がいるらしい。その違いは？ ・在日外国人の人々が困っていることや直面している問題は何か。 	『多みんぞくニホン—在日外国人のくらし—』より ・特別展であることや来館が出来ない場合は、特別展図録『多みんぞくニホン—在日外国人のくらし—』を教材として使用する。
2時間	4. 地域の多文化社会を探る：地域の多文化マップを作ってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地域にも多言語表示があるか？ ・外国人に対応した行政サービスはあるか？ ・インタビューをして在日外国人の声をひろってみよう。 ・自分の地域にはどんな人々がくらしているのか。 ・学校や学級にいる外国人の友達に案内してもらおう。 ・エスニックレストランやスーパーの食料品から何が見える？ 	・対象が小学校中学年の場合は、象徴的で分かりやすいもののみ取り上げる。
1時間	5. 自分の考えをまとめよう <ul style="list-style-type: none"> ・学んだこと、自分の考えを表現しよう。（作文、手紙、新聞、TV番組、ポスター、投書など） 	
11. 評価計画： <ul style="list-style-type: none"> ・日本が多文化社会であることに気づくことができたか。（記述・発言） ・多文化社会である地域を探検し、多文化マップを作成できたか。（作品） ・様々な文化的背景をもつ人々と共生する姿勢をもつことができたか。（行動） 		
13. 授業づくりのための参考資料 <ul style="list-style-type: none"> ・中山京子「国際理解に関わる体験宿題」『総合的学習を創る』No.169, 明治図書, 2004年, 36-37頁。 		

1. 単元名（活動名） 韓国発見！—朝鮮半島の文化を探る—	
2. 対象： 小学校高学年～ 中学校 授業者：学級担任， 教科担任	3. 展示および資料との関連 ・展示「朝鮮半島の文化」 ・みんぱっく「ソウルスタイル」 ビデオテーク ・1086：韓国の伝統料理 ・1151：韓国の伝統的衣装 ・1150：韓国の通過儀礼—誕生から 成人式まで  ・1153：韓国の結婚式 ・1183：韓国の端午の節句 ・1154：韓国の季節祭日 ・1606：韓国の祖先祭祀 ・1184：処舞踊—大韓民国— ・1494：韓国の民衆仮面劇 ・1033：韓国の旅芸人—ナムサダン ・1156：韓国の国楽器 
4. 教科領域との 関連性： ・「総合的な学習の 時間」 ・教科学習（発展的 な学習として）	5. 実施時期：いつでも可
6. 総時数：対象学年や学習にあわせて 弾力的に運用する。	7. 単元（活動）目標： ・朝鮮半島の文化について具体物を通して理解しようとする。 ・展示やモノから、調べたいテーマについて追求し、発見や考えを表現することができる。
8. キーワード ・朝鮮半島 ・文化 ・くらし	9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など） 近年、韓国への注目が高まり、韓国への旅行者数も急増している。日韓共催のワールドカップ以来、日韓共催のイベント、日韓合同製作の映画、韓国テレビドラマの放送、韓国人タレントの日本での活動など、「韓国」が近くなっている。教育の世界でも、国際理解教育において、日韓交流が積極的に行われている。 これまで、韓国についての調べ学習は主に、国語教材文「三年峠」（3年）、社会「身近な国」（6年）、音楽「アリラン」（5年）、などに関わって行われている。また、在日韓国・朝鮮人が集住する地域では、人権教育や国際理解教育の中で、韓国や朝鮮半島の文化についての理解を深める学習が行われてきた。そのため、韓国について調べるための児童図書や資料本は充実しているが、モノとしてたくさんの数を実際に見ることはなかなかできない。 しかし、民博の展示「朝鮮半島の文化」ではモノが豊富にあり、伝統的な事物だけでなく、現代韓国社会において生きている文化の多重性や、在日を含む海外の韓国人をテーマにした展示もあり、子どもたちが「韓国」について具体的なものを通して調べることができる。また、ビデオテークには映像資料が豊富にあり、より具体的なイメージをもつことができる。 その他、学習キットみんぱっく「ソウルスタイル」を併用することで、より子どもの目線にたった追究が可能となる。

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>1. 民朝鮮半島の文化について調べよう／調べるテーマをたてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キムチはどうやってつくるの？ ・韓国の楽器にはどんなものがあるのか。 ・伝統的な服装はどんなものか。 ・今の子どものくらしはどうなっているのか。 <p>2. 民博へ行ってもっと調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に明るい色使いが多い。 ・仏教，儒教，キリスト教が大事にされているんだ ・喪服は黒ではなくて白く，なくなった人を運ぶ輿は明るく飾られているんだ。 ・チャンゴなどの楽器は農楽と深い関わりがある。ケンガリ，チン，ブク，チャンゴを使った現代的音楽「サムルノリ」も農楽からきているんだ。 ・ビデオテープで見よう。 ・韓国も野球人気が高く，日本と同じチーム名があるんだ。 <p>3. みんぱく「ソウルスタイル」で今の子どもの生活を知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが使っている文房具は自分達のもので変わらない。 ・ディズニーのキャラクターのものもある。 ・楽器は子どもたちにとって，身近なものなのか。 ・チョゴリのような服があるけれど，普段はどんな服装をしているのか。 ・教科書の中身は同じかな。 <p>4. 学んだこと，考えたことを作品にあらわそう</p>	
	<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮半島の文化について具体物を通して理解しようとする姿勢が見られたか。（言動，行動観察） ・展示やモノから，調べたいテーマについて追求できたか。（行動観察，記述） ・発見や考えを表現することができる。（記述，発言，作品） 	
	<p>13. 授業づくりのための参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・任栄哲／著『韓国の日常世界 生活・社会・文化の基礎知識』ベスト新書。 ・小長谷有紀／編著 石毛直道／監修『くらべてみよう！日本と世界のくらしと遊び』講談社，2004年。 ・『国際理解に役立つ韓国まるごと大百科5』ポプラ社，2003年4月 ・藤沢皖監修『国際理解にやくだつ友だちが描いたアジア21世紀1』ポプラ社，2002年。 	

1. 単元名（活動名） 謎解きにチャレンジ！	
2. 対象： 小学校高学年～ 中学校 授業者：学級担任、 教科担任	3. 展示および資料との関連  アボリジニの砂絵
4. 教科領域との関連性： ・国語「文字と記号」 ・図画工作／美術 ・「総合的な学習の時間」	 マヤ文字
5. 実施時期： いつでも可	6. 総時数： 対象学年や学習にあわせて弾力的に運用する
7. 単元（活動）目標： ・マヤ文字や砂絵を見て、その意味や音を解説する面白さを味わう。 ・マヤ文字や砂絵に描かれている意味や音を解説し、転写したり、自分で意味あるものを描いたりすることを通して、理解を深める。 ・作品づくりに取り組み、相互に見て楽しむ。	8. キーワード ・マヤ文字 ・砂絵 ・読み解く
9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など） 子どもたちは暗号や記号のような謎めいたものが大好きである。そういったものを展示から探して解説する活動を構成した。小学校学習指導要領において、国語の教材についての留意事項で「科学的、論理的な見方や考え方をする態度を育て、視野を広げるのに役立つこと」「世界の風土や文化に理解をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと」とある。図画工作においては、5・6年の鑑賞について「我が国や諸外国の親しみのある美術、暮らしの中の作品などのよさや美しさ、表現の意図などに関心をもって鑑賞をすること」とある。ここで教材として取り上げるマヤ文字や砂絵はこれらの視点にそったものである。 マヤ文明は、新大陸でもっとも発達した文字をもっていた。そのマヤ文字の展示を前にして子どもたちが立ち止まって解説を試みることを通して、子どもの記憶に「マヤ文明」が残ることであろう。オーストラリア中央砂漠地域では、足跡や痕跡をもとにしたシンボリズムが発達し、儀礼の際、地面にドリーミングを表す砂絵が描かれた。現代では、キャンパスにアクリル絵の具で描く芸術作品に変化している。ネイティブアメリカンのロックペインティングは、精霊世界を中心とした描画が発達し、現代では、陶器やアクセサリーのデザインの他、カラフルに描かれた作品に変化している。 これら過去に残されたものを解説して、精神性やメッセージ、世界観を知ることには、同じ生を受けた人間として、地代を超えて理解する楽しさがある。実際のモノからそれらを読みとき、または自ら製作してみる活動を通して、それぞれの文化に親しみをもつようになるだろう。 本学習活動は、文字のもつ意味やメッセージを伝えることの意味を問いながら、解説や作品づくりに取り組むことで、国語や図工の時間を用いて合科的に扱うこととする。または、「総合的な学習の時間」にて行うこととする。	

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>〈民博で〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マヤ文字が刻まれたもの、アボリジニの砂絵の展示をじっくりみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・読み解く手がかりがあるかな。ヒントを使って読んでみよう。 ・マヤ文明はどの辺で栄えたのか。アボリジニとはどんな人々？ ・面白い絵柄はあるかな。 ・マヤ文字について民博の先生に解説をしてもらおう。 2. 記録をとってみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵柄をそのままスケッチしよう。 ・デジタルカメラで記録して、解説ボードをつくれるかな。 ・意味を一緒に記録して再現できるようにしよう。 <p>〈学校で〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 作品を作ってみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・アボリジニの砂絵を書いてみよう。どんなドリミングを表そうかな。 ・マヤ文字を使って名前やメッセージを書いてみよう。 	<p>・マヤ文字解読のヒントとして『月刊みんぱく』2004年4・5月号の一覧表を配布する。（できれば展示場においておきたい）</p>
	 	<p>*左の作品例はネイティブアメリカンのロックペインティングを模したものである。</p>
<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マヤ文字や砂絵を見て、その意味を解読する面白さを味わうことができたか。（行動観察，日記） ・マヤ文字や砂絵に描かれている意味を解読し、転写したり、自分で意味あるものを描いたりするを通して、理解を深めたか。（記述，行動観察） ・作品づくりに取り組み、相互に見て楽しむ。 		
<p>13. 授業づくりのための参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネイティブアメリカンのロックアートについては、栗津潔とNARA探検隊編『ロックアート—神話そしてイマジネーション—』印刷博物館，2002年に詳しい。 		

1. 単元名（活動名） 移動する人々	
<p>2. 対 象： 中学校～ 授業者：学級担任， 教科担任</p>	<p>3. 展示および資料との関連</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>4. 教科領域との 関連性： ・『総合的な学習の 時間』 ・社会科（発展的な 学習） ・家庭科</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>・1138：マヌーシュの生活－フランス中部のジブシー ・1639：遊牧民のくらし－カシュカイの人々－</p>
<p>5. 実施時期：いつでも可</p>	<p>6. 総時数：対象学年や学習にあわせて 弾力的に運用する。</p>
<p>7. 単元（活動）目標： ・人はなぜどのように移動しようとするのか考える。 ・人が移動することによって何がおこるか考える。 ・展示から人の移動にかかわるものを探し，調べて，発表する。</p>	<p>8. キーワード ・移動 ・文化変容</p>
<p>9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など）</p> <p>近年の世界のグローバル化によって加速度的に人の移動が進み，各地で多文化的状況が生まれているが，これまでも人が移動することによって様々な知恵が生まれ，文化変容がおこってきた。ここでは，人の移動に焦点化して展示をみつめ，人が移動しようとする原点を探る。</p> <p>例えば，展示から以下のようなことが発見できる。インドネシアのマドウラ島とジャワ島にはさまれた海域で見られる漁船は，船体に色鮮やかな文様が描かれ，船首と船尾のそりががった特徴がある。これは漁業のための船であるが，生活する船もある。マレーシアからインドネシア，フィリピン南部にいたる海岸部には，家船を住まいとして一定の海域を移動しながら漁撈や小規模な交易を行う人々がいる。人の移動は海だけではない。マヌーシュの人々が伝統的な移動生活をおこなう家馬車をフランスではルーロットという。この家馬車の本格的な利用は18世紀のイギリスにはじまり，その技術が海を渡り，フランスのブルターニュ地方に伝わり，大陸でも普及した。サンバで有名なブラジルのリオのカーニバルだが，サンバは19世紀末，アフリカ系の歌と踊りがカーニバルの行列に取り入れられ，発達したものである。つまり，人の移動の産物としてサンバがブラジルで生まれたのである。</p> <p>人の移動は生活の糧を求めての移動，安住の地を求めての移動，強制的な作用による移動などある。本活動では，なぜ人が移動するのか，人の移動によって生起するものを，教科書などのテキストとして読むのではなく，展示から読み取ってほしい。</p>	

10. 展開計画・展開記録		
次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
	<p>1. 人はなぜ移動するのか。 食料を得るため 領土を広げるため 逃げるため 偶発的に 強制的に 好奇心</p> <p>2. 人はどのように移動するのか。 ・海を渡って 陸づたいに 寒い地域から暖かい地域に ・時間をかけて少しずつ</p> <p>3. 人の移動の視点から展示をみよう ・マレーシアからインドネシア、フィリピン南部にいたる海岸部には、家船を住まいとして一定の海域を移動しながら漁撈や小規模な交易を行う人々がいる。 ・マヌーシュの人々が伝統的な移動生活をおこなう家馬車をフランスではルーロットという。この家馬車の本格的な利用は18世紀のイギリスにはじまり、その技術が海を渡り、フランスのブルターニュ地方に伝わり、大陸でも普及した。 ・サンバで有名なブラジルのリオのカーニバルだが、サンバは19世紀末、アフリカ系の歌と踊りがカーニバルの行列に取り入れられ、発達した。</p> <p>4. 人の移動について展示から発見したことを話し合おう。 ・装飾品に使う石やガラスから文化交流が言える。 ・人の移動とともに宗教が広がったことがわかる。 ・人の移動とともに技術や栽培植物が伝わり、生産が向上したり、食生活に変化が生まれたりした。</p>	
<p>11. 評価計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人はなぜどのように移動しようとするのか考える。（発言，記述） ・人が移動することによって何がおこるか考える。（発言，記述） ・展示から人の移動にかかわるものを探し，調べて，発表する。（行動観察，発言，記述） 		
<p>13. 授業づくりのための参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒井洋監修『講座グローバル化する日本と移民問題』第1期第3巻，明石書店，2003年。 ・富野幹雄・住田育法編『ブラジル学を学ぶ人のために』世界思想社，2002年。 ・伊予谷登士翁著『グローバリゼーションと移民』有信堂高文社，2001年。 ・水上徹男著『異文化社会適応の理論—グローバル・マイグレーション時代に向けて—』ハーベスト社，1996年。 ・『はじめてであうアジアの歴史6』あすなる書房，1998年。 		

註

- 1) 東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校3年2組, 授業者中山京子, 2004年12月-2月実施。
- 2) 2冊とも砂絵に関する記述がある図書である。

文 献

JICA横浜国際センター海外移住資料館

2005 『学習活動の手引き』

国立歴史民俗博物館監修

2003 『先生のための「歴博」見学の手引』歴史民俗博物館振興会

中山京子

2002 「博物館と連携した国際理解教育の取り組み」『教職研修』7月号

2004 「学びの場を広げる博物館と学校の連携」全国建設研修センター編『国づくりと研修—特集博物館へ行こう—』103

日本造形教育研究会

2001 『なぞの色すなピラミッド』開隆堂出版 平成13年検定済

高橋弘久

2004 「博物館のあそび心—時遊館CoCoCoはしむれのチャレンジ」全国建設研修センター編『国づくりと研修—特集博物館へ行こう—』103

高安礼士

2004 「千葉県に見る博物館と学校教育の融合—博物館活用の支援方策—」全国建設研修センター編『国づくりと研修—特集博物館へ行こう—』103